

## 保育計画成果報告書

|         |                                                                             |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 法人名等    | 特定非営利活動法人 あいあいの杜                                                            |
| 施設名     | わくわく保育園                                                                     |
| 報告者（役職） | 田坂 こころ（園長）                                                                  |
| 住所・連絡先  | 岡山県瀬戸内市長船町福岡 833                                                            |
|         | <div>☎ 0869-24-8601</div> <div>E-mail wakuwaku-osafune@wakuwaku.ed.jp</div> |

### ○タイトル（保育計画）

“おもしろい” “やってみたい” が十分味わえるワクワクする保育環境

### ○主な助成備品

間仕切りパーテーション、整理棚、絵本立て付き棚、1歳発達ベーシックシリーズ、ままごとちゃぶ台

## 1. 保育計画策定の目的

本園は、2023年4月に開園したばかりの0歳から2歳までの小規模保育所です。ゆるやかな担当制保育を取り入れた温かい家庭的な保育を目指し、木のぬくもりが感じられる園舎と保育室でお家と同じ雰囲気の中で過ごしています。保育室は、0歳児が過ごす部屋と1・2歳児と一緒に過ごす部屋の2部屋で保育を行っています。住宅地の中にあり、十分に体を動かして遊ぶことが難しいため、毎日園外へ散歩に出かけて近くの広場や畑をかけ回ったり、地域の方や自然との出会いを大切にしたりしています。また室内環境は、異年齢の子どもたちが自然と混じり合い、ゆったりとくつろいだり、じっくり集中して遊んだり、かかわりを楽しんだりして“おもしろい” “やってみたい” と思える環境づくりを大切に、日々保育者間でアイデアを出し合いながら環境構成を考えています。

こうした環境を作り上げていく中で、子どもたちは“今何に興味や関心をもっているのかな” “発達にあっているのかな” “どんなことを感じて遊んでいるのかな” など子どもに寄り添う姿勢を常に意識するようにしています。やさしい木のぬくもりを感じられる雰囲気をベースに、パーテーションや棚で区切り、さまざまな素材の玩具を子どもの視線の高さに設置し、やりたいことを自分で選んで、満足いくまで遊べる室内環境を作りたいと思い保育計画を策定しました。

## 2. 具体的な実施内容

子どもの興味や発達に応じた遊びを取り入れ、個性や意思を尊重していろいろな遊びの中から自由に遊びを選択することができ、自分たちの空間で安心感をもちながら遊び込める室内環境の構成を以下のように考え実践しました。

### <じっくり遊び込めるコーナー>

指先をたくさん使うことで集中力を高め、目の動きに手を合わせるという力を大切にしながら手先や指先を使って遊べるコーナーを作りました。ひも通し、型はめ、積み木、洗濯ばさみなど発達段階に応じて用意し、自分でやりたい遊びを選んで持ち運びしやすいようにかごに分けて置いてみました。すると、集中して何回も繰り返したり、友だちがしていることに興味をもって真似たり、教え合って一緒にしたり、遊んだ後は自分でかごの中に入れて片付けたりする姿が見られるようになりました。

また、年齢に合わせて定期的に種類や素材を変えることで、形、色、大きさへも興味をもち始め、だんだんと“できた”“わかった”という達成感につながっていく過程を楽しんでいます。



### <生活を再現できるコーナー>

想像力を育んだり社会性を身に付けたりすることにつながり、日常生活で体験したことを再現して楽しめるままごと遊びは、子どもたちはみんな大好きです。お家と同じような雰囲気でイメージが持ちやすいように、手作りの流し台やキッチン棚を置いたり助成していただいた丸いちゃぶ台を置いたりしてままごとコーナーを作りました。すると、ごちそうを作って並べたり、お人形のお世話をしたりして友だちや保育者と一緒にしかかわりを楽しみながら遊ぶ空間になっていきました。丸いちゃぶ台は大きさや高さも丁度良く、いつもみんなで囲んで座る場所となり、コップを合わせて乾杯をしたり、誕生日パーティーをしたりして子どもたちが自然と集う場所になっています。



### ＜ごっこ遊びができるコーナー＞

友だちとのやりとりが盛んになる時期には、見立て遊びやごっこ遊びが楽しめるように、パーテーションや棚で区切ったり、装飾などの雰囲気作りや手作りの小道具を作ったりして「お店屋さん」「おうち」「お医者さん」などごっこ遊びのイメージが持ちやすいように工夫しました。助成していただいたパーテーションは倒れない安全な構造で、保育者も子どもも反対側の様子が見やすく、丁度良い高さで安心して遊ぶことができます。また、木材を使ったパーテーションは、木のあたたかみを大切にしている当園の雰囲気にも合っており、玩具を手に取りやすい整理棚もついているため、使い終わった後の片付けも子どもたちが自ら楽しんで取り組んでいます。



### 3. その成果と評価

木のぬくもりを感じながら子どもたち一人ひとりがやりたい遊びを存分に楽しめる室内環境を作ろうと計画を立て、職員でアイデアを出しながら保育室のレイアウトをしたり、子どもの興味や発達に合わせて玩具を選んだり、よりあたたかさを感じられるように手作り玩具を作ったりして、環境を整えていきました。

実際にやってみると、子どもの興味や発達、動きに合わせた保育室のレイアウトはとても難しく、試行錯誤しながら何度も再構成を行いました。そこで、今回助成していただいたパーテーションや棚を設置し、足りないところは段ボールなどの手作りの仕切りを利用しながら、保育室にいくつかのコーナーを作ることで、遊びが見つからず部屋を走ったりする子どもの姿が少なくなり、自ら好きな空間を選んで安心して落ち着いて遊ぶ子どもたちの姿へと変化していきました。そして、集中して一人遊びをじっくり楽しんだり、お互いの存在を感じながらもやりたいことに没頭したり、玩具や空間を介して友だちとのかかわりが生まれたり、遊びが広がったりする姿が見られるようになり、遊びの中で子どもたちの成長や育ちを感じることができました。

また、保育者もそれぞれのコーナーで遊ぶ子どもの姿をそっと見守ったり、時に

は遊びの中に一緒に入ったり、子どもの思いや考えに寄り添う姿勢で保育することの大切さを改めて感じさせていただきました。

開園したばかりで備品なども十分揃っていない中、保育者が廃材などを利用して手作りで工夫していたところ、パーテーションや棚を助成していただき本当に感謝しています。安心安全な子どもたちの遊び空間を作ることが実現でき、成果が得られたことを大変有難く嬉しく思っております。

#### **4. 今後の課題と展望**

第一生命財団より助成していただき、保育環境の重要性を改めて感じる機会となりました。今後は、室内環境だけでなく園庭環境も同じように考え、子どもの興味や発達に合わせて“やってみたい”“おもしろい”と思えるような環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

以上